

## 9 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 令和元年9月12日（木）
- 2 開 催 場 所 新館8階 教育委員室
- 3 出席した委員 小南教育長、吉田委員、播委員、坂元委員
- 4 欠席した委員 廣岡委員
- 5 出席した職員 高井教育総務部長、山本教育指導部長、  
吉田教育総務部次長、杉本教育指導部次長、  
神吉教育指導部学校教育担当参事、  
山野教育総務課長、岸田学務課長、  
福島社会教育・スポーツ振興課長、  
境学校教育課長、今津青少年育成課長、  
加藤教育研究所長、沼田文化財調査研究センター所長、  
姫路少年自然の家所長、小浦中央図書館長、  
藤崎教育総務課副課長、岡本教育総務課管理調整係長
- 6 傍 聴 者 5人
- 7 議 事 の 要 旨
  - 開 会 午後2時00分
  - 会議録署名委員指名のこと  
播委員に決定
  - 8月定例教育委員会及び臨時教育委員会の会議録報告承認のこと  
(事務局から会議録朗読報告)  
承 認
  - 会議公開の可否決定のこと  
全ての議事を公開することに決定

(専決報告)

- 1 加古川市少年補導委員の解嘱について  
(教育指導部参事から説明)  
承 認

(協議事項)

- 1 「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について  
(教育総務部次長から説明)  
原案可決

委 員 : 「教育アクションプラン 2018 管理表」及び「最重要取組事項に係る事務事業評価シート」において、事業の目的と成果指標がうまく対応していないという学識経験者からの意見はもつともである。事務事業評価シートの意義は何かと考えを整理し、事業主体は誰で、どのような指標で評価すべきなのか考え直す必要があるのではないかと。

事 務 局 : ご指摘のとおりである。事業主体は教育委員会であるにもかかわらず、学校が主体で行っているかのように読み取れる表現になっている箇所があり、誤解を与える可能性がある。次年度分を作成する際に見直したい。

委 員 : 25、26 ページの「知・徳・体における校種間連携カリキュラムの作成」という事務事業の事業成果は、より良い校種間連携カリキュラムを作成することであると考えますが、校種間連携カリキュラムを作成したユニット数や会議の回数が指標となり、校種間連携カリキュラムの中身については評価されていない。本来であれば、校種間連携カリキュラムの中身を評価し、さらに事務局として、各ユニットから出された校種間連携カリキュラムの特徴や優れている点を見つけ出して評価し、ユニット同士が刺激を受け合い、切磋琢磨し、より良い校種間連携カリキュラムを作成するように導くべきであると考えます。

事 務 局 : 各ユニットが作成した校種間連携カリキュラムはどれも素晴らしいものであると認識しているので、校種間連携カリキュラムがより良くなるよう、また、作成したものを学校現場で活かせるよう、事業を進めていくとともに、事務事業評価シートを見直したい。

委 員 : 39 ページにある「心の絆プロジェクト事業」には、児童会・生徒会を中心とした自主的な活動を通して「いじめ問題」の未然防止に取り組んでいることと、子どもたちの自己肯定感が高まっているかどうかの2点について言及されている。どちらも非常に重要であるため、1つに詰め込もうとせず、事業を分けるか、同じ事業名でも事務事業評

価シートを分けて整理する方がよりわかりやすくなるものと考えてるので、次に活かしていただきたい。

事務局：現状としては、各学校の児童会・生徒会で努力を重ねているところであり、児童会・生徒会代表者ミーティングにおいても、子どもたちと担当教員も真剣に話し合い、より良いものを作り上げようとしているので、その実態を評価できるような指標を検討するとともに、市民の皆様に提示できるようなものを考えていきたい。

委員：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の分析を活用した体力・運動能力の向上という方針の評価指標の一つに、「健康な生活を送るには、運動・睡眠・食事が大事」だと感じている児童生徒の割合が挙げられているが、感じているだけでは不十分ではないかと思うので、実際に取り組んでいる児童生徒の割合といたったもう少し踏み込んだ指標とする方が、より意味のある評価になるのではないかと考える。

教育長：ご指摘のとおり、事務事業名に応じた実効性のある成果指標を作成する必要がある。今後は、PDCAサイクルを回していくため、更なる改善を図っていきたい。

委員：「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」は過去に学識経験者や教育委員が指摘したところが反映され、経年的にみると良い報告書になってきている。さらに追求し、第2期加古川市教育振興基本計画が円滑に進んでいることがより分かりやすい報告書の作成に努めてもらいたい。

委員：重点目標評価及び個別評価をAからDの4段階で評価されているが、今年度は特に評価の因果関係が市民にも分かりやすく、納得できる評価ができていた点が良いと感じた。

## 2 令和元年度9月補正予算に係る意見について

(教育総務部次長から説明)

原案可決

## 3 加古川市社会教育委員の委嘱及び任命について

(教育指導部次長から説明)

原案可決

委員：これまでは、各年度で目標を設定して活動していたが、この2年の任期でどのような活動をするのか。

事務局：平成26年度から平成29年度の4年間で、教育委員会が所管する社会教育施設に対して、改善に向けた提言を行い、平成30年度には少年自然の家、今年度は図書館の進捗状況の確認を行っている段階であり、今回任命された委員は、前任者の活動を引き継ぐ予定である。

併せて、教育委員会各課で所管する社会教育事業が抱える課題を解決するために、委員から助言や意見をいただき、各課にフィードバックできるようにしたいと考えている。

委員：様々な組織と施設の活性化についても社会教育委員会において議論していただきたいと考える。

#### 4 令和2年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択について (教育指導部参事から説明)

原案可決

委員：選定された教科書を教員、子どもたちそれぞれにどのように使ってほしいかということが8月定例教育委員会で議論された。その内容を現場の教員にどのように伝えていくのか。

事務局：8月定例校長会で採択結果に付随して、採択理由について細かく説明した。今後、指導主事による各学校への指導助言に向けて、指導主事の研修会で全ての指導主事に全教科の特徴や使い方を共有していく予定である。また、教頭会等でも実際の教科書を示しながら、選定された教科書の特徴を周知するとともに、学校でも事前研究を行うよう促していく予定である。

委員：管理職からの伝言だけではなく、各教科担当に直接周知し、指導主事へ質問ができるような機会を作るなど、相互理解を深められるような仕組みづくりをしてもらいたい。

事務局：各教科担当及び担当指導主事が集まる機会が全教科それぞれにあるので、その際に重ねて周知できるようにしたい。

#### 5 令和2年度加古川市立加古川養護学校高等部第1学年の募集定員について (教育指導部参事から説明)

原案可決

委員：現在の受検予定人数を教えてください。

事務局：8月末時点では、加古川養護学校中学部を卒業見込みの4人が重複障害学級の受検を希望している。なお、市内の肢体不自由学級の卒業見込みの者、他市町の方からの問合せや入学希望者説明会への参加はない状況である。

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

10月10日（木）午後3時から開催することに決定

○ 教育長諸報告

(1) 令和元年第3回市議会（定例会）における代表質問について

9月5日（木）に代表質問があり、教育委員会関係では、木谷万里議員から、大項目「教育行政に市民の意見を反映させる仕組みについて」のうち「市民の立場で教育行政に提言する仕組みについて」、大項目「教職員が児童生徒と十分に向き合える時間の確保について」のうち「教職員の勤務時間の適正化について」「教員のなり手不足について」「学校規模適正化及び適正配置について」、大項目「夏休みの短縮について」のうち「授業時間の確保について」「エアコン設置後の夏休みの短縮について」の質問があった。

それぞれの質問の趣旨と答弁の要旨を説明する。

(2) 令和元年第3回市議会（定例会）における一般質問について

9月5日（木）、6日（金）、9日（月）に一般質問があり、教育委員会関係では、山本一郎議員から、大項目「子ども達の『制服』が抱える課題と、今後の『在り方』について」のうち「子ども達の『制服』の現状について」「指定販売店制度を導入しているメリット、デメリットについて」「制服の販売ルート拡充について」「子ども達の『制服』の今後の在り方について」、小林直樹議員から、大項目「学校教育における文化芸術鑑賞の充実について」のうち「文化芸術鑑賞の認識について」「文化芸術鑑賞、体験活動の現状について」「さらなる環境整備について」、岸本建樹議員から、大項目「子どもたちを取り巻く教育環境の改善を求めて」のうち「加古川市立小学校・中学校の学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針の目指す方向について」「学校の規模適正化・適正配置の必要性のうち大規模校のデメリットについて」「小中一貫校のメリット・デメリットと導入による影響について」「パブリックコメントに対する対応について」「両荘幼稚園の休園と教育行政の責任について」、立花俊治議員から、大項目「中学生用租税教育教材について」のうち「この教材の採用に至った経過と説明内容について」、藤原繁樹議員から、大項目「就学前教育について」のうち「幼稚園・認定こども園の3歳児（1号認定）の受け入れについて」の質問があった。

それぞれの質問の趣旨と答弁の要旨を説明する。

(3) 令和元年第4回市議会（定例会）日程（案）について

12月3日（火）から18日（水）に開催される。

(4) 令和元年度 加古川市教職員研修会の開催について

8月20日（火）に「令和元年度 加古川市教職員研修会」を教育委員会と校園長会の共催で開催し、1,200人を超える教職員が参加した。研修会の中には元アイススレッジホッケー日本代表でパラリンピック銀メダリストの上原大祐氏の講演があった。

(5) 第2回いじめ防止市民フォーラムについて

9月1日(日)に加古川市教育委員会主催「第2回いじめ防止市民フォーラム」を開催した。このフォーラムに先立ち、小中学校の児童会・生徒会の代表者による代表者ミーティングを行い、今後、取り組む必要があることについて話し合い、当日、発表を行った。また、兵庫県立大学の竹内和雄准教授をコーディネーターに迎え、中学生によるパネルディスカッションを実施した。

○ 教育総務部長諸報告

(1) 就学援助の認定について

小中学校児童生徒に対する就学援助の認定を行った。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 令和元年度全国中学校体育大会の結果について

令和元年度全国中学校体育大会が、8月17日(土)から近畿ブロックで開催された。

(2) 2学期実施予定の運動会・体育大会、小学校修学旅行及び自然学校の日程について

2学期実施予定の運動会、小学校修学旅行及び自然学校の日程について報告する。

委員：小学校の自然学校の行き先について、加古川市立少年自然の家を利用する学校が年々少なくなっているように思う。

事務局：過去には増加した時期もあるが、直近2年から3年は減少傾向にある。市内にある良い施設であると自負しているので、今後は学校訪問を通して学校管理職や学年担任と意見交換を行い、利用促進につなげたいと考えている。

(3) オープンスクール等の実施について

本日以降に実施される市内各校園のオープンスクールと少年自然の家の公開可能なイベントの日程を報告する。

以上、3件について報告

○ 閉会 午後3時30分